



最優秀賞(中学生)

# 「受け継がれる自然と伝統」

和歌山県立向陽中学校2年

岸本 彩乃 (きしもと あやの)



「空青し山青し海青し」

これは、和歌山県出身の詩人、佐藤春夫が『望郷五月歌』で和歌山の自然について書いた一節である。広がる空、青々とした山、そして輝く海。これを読むだけで、和歌山の豊かな自然が一心に感じられる。

和歌山県は、遥か昔から詩歌との関わりが深い。「和歌」山という県名の由来も、そこからきたというほどだ。

私は、去年、交流遠足で和歌の浦に行った。フィールドサーチで玉津島神社や片男波海岸、万葉館などを巡った。その中で、私が特に印象に残ったのは、万葉館で出会ったこの歌だ。

「若の浦に潮満ち来れば濁をなみ  
葦辺をさして鶴鳴き渡る」

これは、百人一首第四首を詠んだ歌人としても有名な山部赤人の歌である。私がこの歌に感動したのは、この歌が今から約1200年前、奈良時代に詠まれたと知ったからだ。ずっと昔、今とは食事も生活も社会の仕組みも違った時代に、山部赤人は今私が見ている景色を見て、私と同じように自然の美しさを感じていたのだ。それに気づいた時、私は、長い年月を経て伝えられてきたこの歌と、受け継ぎ守られてきた和歌山の自然に心を打たれた。

この交流遠足を通して、私は今まで知らなかった和歌山の魅力に気づくことができた。また、和歌山県に住んでいながらも、和歌山について知らないことがたくさんあるのだと分かった。だから、未来の和歌山を担う私達がすべきことは、まずは「和歌山について知る事」だと思う。

和歌山を意味する「紀」にかかる枕詞をご存知だろうか。それは「あさもよし」だ。この言葉の由来の一つに「浅く見て良し」がある。これを現代の意味にすると、「深く見なければ本当の良さは分からない」となる。和歌山の本当の良さを知るためには、和歌山に興味を持ち、よく調べ、よく見る必要があるのだ。

そのために私は、和歌山について学びたいと思った。和歌山について学ぶ機会はたくさんある。学校の授業や地域のイベント、また、地域の人に話を聞くこともできる。伝統のある寺社に行ったりするなど、自ら行動していきたいと思った。

このように、和歌山県は詩歌との関わりが深く、たくさんの歌が詠まれてきた。それは、和歌山の豊かな自然が、時代を超えてたくさんの人々に感動を与えていた証拠だ。だから私は、その豊かな自然を守り、受け継がれてきた伝統を未来へ繋いでいきたいと思った。そして、未来の和歌山が今よりももっとも魅力のあふれる県になるように、私たちにできることを探していきたい。



優秀賞(中学生)

## 「大切にしたいこと」

和歌山県立向陽中学校2年  
中村 朋 (なかむらとも)



和歌山県、といえば何をイメージしますか。私は美しい自然をイメージします。那智の滝や白良浜、高野山や円月島など様々な自然スポットがあります。もし何年経ったとしても和歌山の自然が美しいまま残っていてほしいです。だから、和歌山の自然を大切にしたいです。

私は学校の授業の一環として海南市の「ビオトープ孟子」に行きました。「ビオトープ孟子」は生物多様性豊かな「さとやま」です。そこはたくさんの生物と緑に囲まれ、和歌山の自然の魅力を感じました。ニホンアカガエルという絶滅危惧種のカエルがいたり、今までに見たことがない植物が生えていたりして自然と楽しく触れ合えるとても興味深い経験でした。この経験を通して感じたことは、生物は自然なしでは生きていくことができないということです。絶滅危惧種の生物などを守っていくためにも、和歌山のこの美しい自然は欠かせません。

和歌山の自然が急速に減少しているという話をあまり聞いたことがありませんが、ひとりひとりが気を付けなければ、和歌山の美しい自然はだんだんと減っていってしまうと思います。和歌山といえば緑がたくさんある、というイメージが消えて、みずほらしい和歌山にはなってほしくないです。だから、日頃から意識して和歌山の自然を大切にしなければいけないと思います。できることはたくさんあると思うので、少しでも自分にできることを実行していくことが最善の方法だと思います。

私は緑豊かな和歌山に生まれて良かったと思っています。和歌山のこの美しい自然を守るために自分にできることを精一杯していきたいです。自然は生物のすみかになるだけでなく、リラックスできる憩いの場でもあると思います。和歌山が憩いの地ということでも知られていったらいいな、と思っています。

和歌山には自然だけではなく、他にもたくさん良いところがあると思うので、和歌山を大切にしていきたいです。

